

南条殿御返事

建治二年一月十九日 五五歳

はるの^春はじめの御^使つかひ、自他^籠申しこめまいらせ候。さては給はるところの^{種々}すずの物の事、もち^餅ぬ七十^枚まい、さけ^酒ひとつ、いも^芋いちだ・河^一のりひとつかみぶくろ・だい^紙こんふたつ・やまのいも^本七^品ほん等^品なり。ねん^品ごろの御心ざしは^品しなじ^品なものにあらはれ候ひぬ。

法華^{むな}經の第八の卷に云はく「所願^{また}虚^{また}しからず亦現世に於て其の福報を得ん」と。又云はく「^{まさ}当に現世に於て現の果報を得べし」等云云。天台大師云はく「天子の一言虚しからず」と。又云はく「法王虚しからず」等云云。賢王となりぬれば、たとひ身をほろぼせどもそら事せず。い^況わうや釈迦如来は普^ふ明^{みょう}王とおはせし時は、はん^班ぞく^足王のたてへ入らせ給ひき。不^ふ妄^{もう}語戒^ごを持たせ給ひしゆへなり。かり王とおはせし時は、実^{じつ}語^ご少^{しょう}人大^{にん}妄^{たい}語^{もう}入^ご地^{にゅう}獄^{じごく}とこそおほせありしか。い^況わうや法華經と申すは、仏、我^よと^う要^{とう}当^{せつ}説^{しん}真^{じつ}実となのらせ給ひし上、多^並宝^並仏十^並方^並の諸^並仏あつ^並ま^並らせ給ひて、日^並月^並衆^並星^並のならばせ給ふがごとくに候ひし^座ざ^席せ^虚き^何なり。法華經にそら事あるならば、なに事をか人信ずべき。かゝる御經に一^亂華^亂一^亂香^亂をも供養する人は、過去に十^亂万^亂億^亂の仏を供養する人なり。又釈迦如来の末法に世のみだれたらん時、王^早臣^魁万^早民^魁心^魁を一^早にして一人の法華經の行者を^早あ^魁だ^魁まん^魁時、此の行者かん^早ば^魁ち^魁の少^早水^魁に魚^早の^魁す^魁み、万^早人^魁にか^早こ^魁ま^魁れた^魁る鹿^早のご^魁と^魁く^魁なら^早ん^魁時、一人ありてと^早ぶ^魁らは^魁ん^魁人は生^早身の^魁教^早主^魁釈^早尊^魁を一^早劫^魁が^早間^魁、三^早業^魁相^早應^魁して供養しま^早いら^魁せ^早たら^魁ん^魁よりなを功^早徳^魁ず^早ぐる^魁べき^早よし^魁如^早来^魁の金^早言^魁分^早明^魁なり。日^早は^魁赫^早々^魁たり、月^早は^魁明^早々^魁たり。法華經の文字は^早か^魁く^早か^魁く^早め^魁い^早め^魁い^早たり。め^早い^魁め^早い^魁か^早く^魁か^早く^魁たる^早あ^魁き^早ら^魁かな^早る^魁鏡^早にか^魁を^早を^魁う^早か^魁べ、^清す^清める^清水^清に月^清の^清う^清か^清べる^清が^清とし。

しかるに亦^{やく}於^お現^{げん}世^ぜ得^{とく}其^ご福^ふ報^{ほう}の^ち勅^{ちやく}宣^{せん}、当^{とう}於^お現^{げん}世^ぜ得^{とく}現^{げん}果^か報^{ほう}の^{ほう}鳳^{ほう}詔^{しやう}、南^な条^{じょう}の七^{しち}郎^{らう}次^じ郎^{らう}殿^{でん}にか^みぎ^こりて^空む^空な^空しか^空る^空べ^空し^空や。日^出は^出西^出より^出い^出づ^出る^出世^出、月^思は^思地^思より^思なる^思時^思なり^思とも、^み仏^みの^み言^みむ^みな^みし^みから^みじ^みと^みこそ^み定^みめ^みさせ^み給^みひ^みしか。これ^以を^以も^以て^以お^以も^以ふ^以に、慈^し父^し過^し去^しの^し聖^し靈^しは^し教^し主^し釈^し尊^しの^し御^し前^しに^しわ^した^しら^しせ^し給^しひ、^檀だ^檀ん^檀な^檀は^檀又^檀現^檀世^檀に^檀大^檀果^檀報^檀を^檀ま^檀ね^檀か^檀ん^檀事^檀疑^檀ひ^檀あ^檀る^檀べ^檀から^檀ず。か^幸う^幸じ^幸ん^幸か^幸う^幸じ^幸ん。

正月十九日

日 蓮 花 押

南条殿御返事